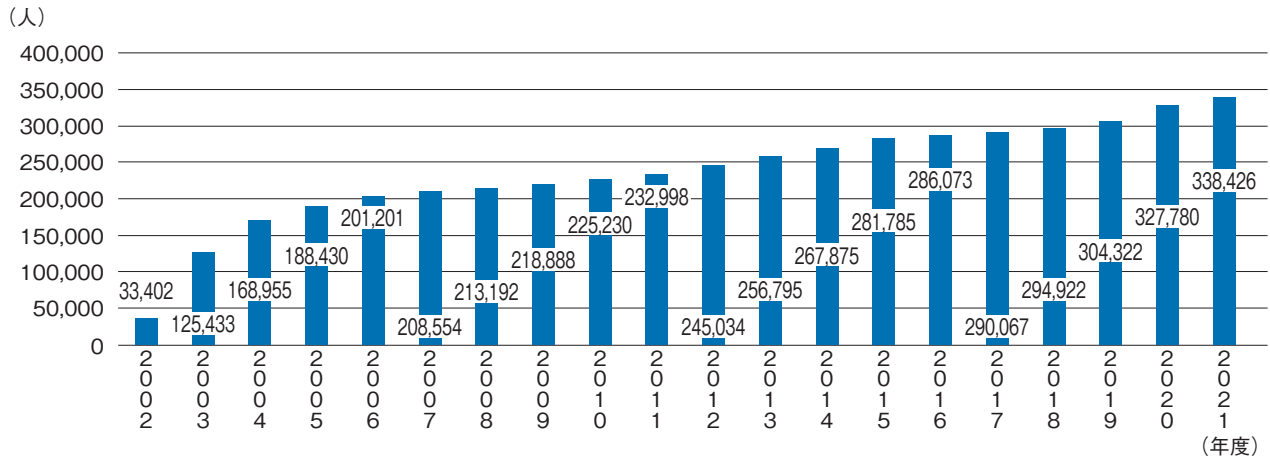


診療実績

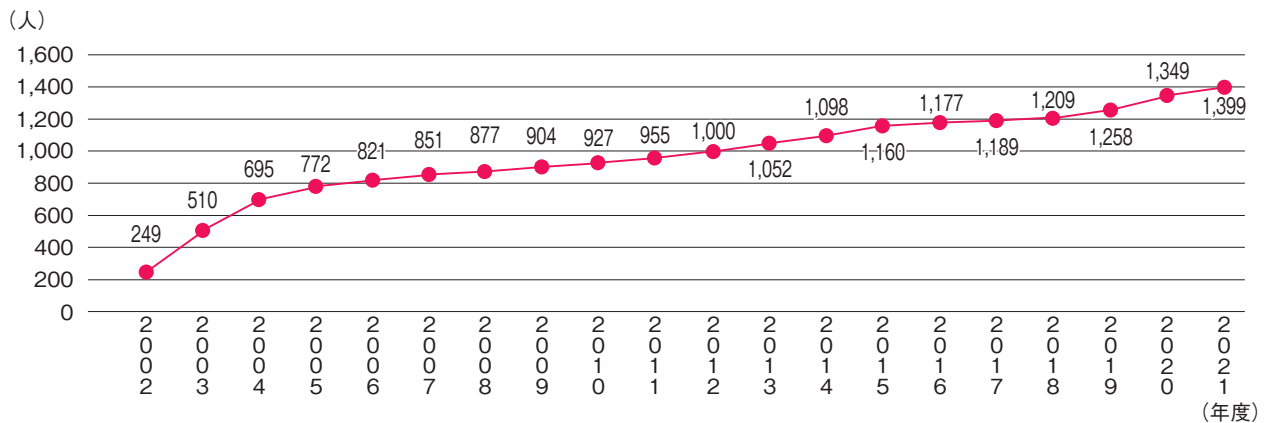
患者数および病床稼働率と平均在院日数

外来患者数の状況



延べ外来患者数の推移

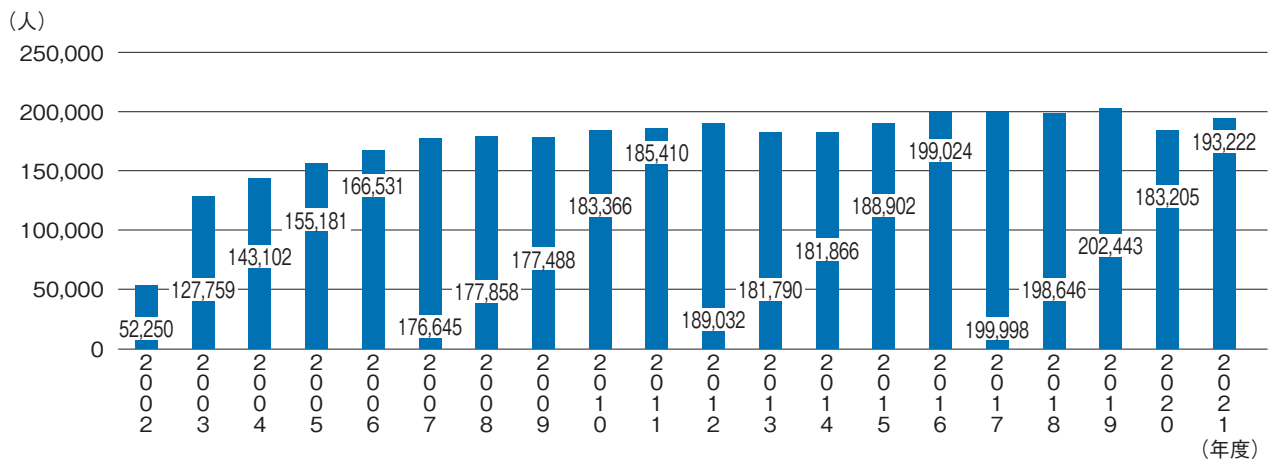
※2020年度以降は、入院中他科診および検診者を含む



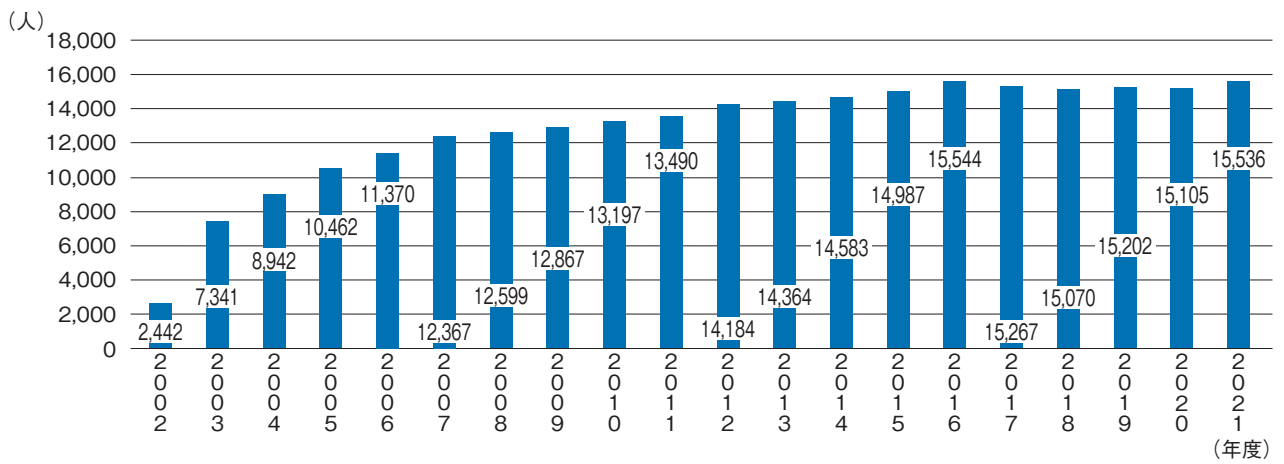
1日当たりの外来患者数の推移

※2020年度以降は、入院中他科診および検診者を含む

入院患者数の状況

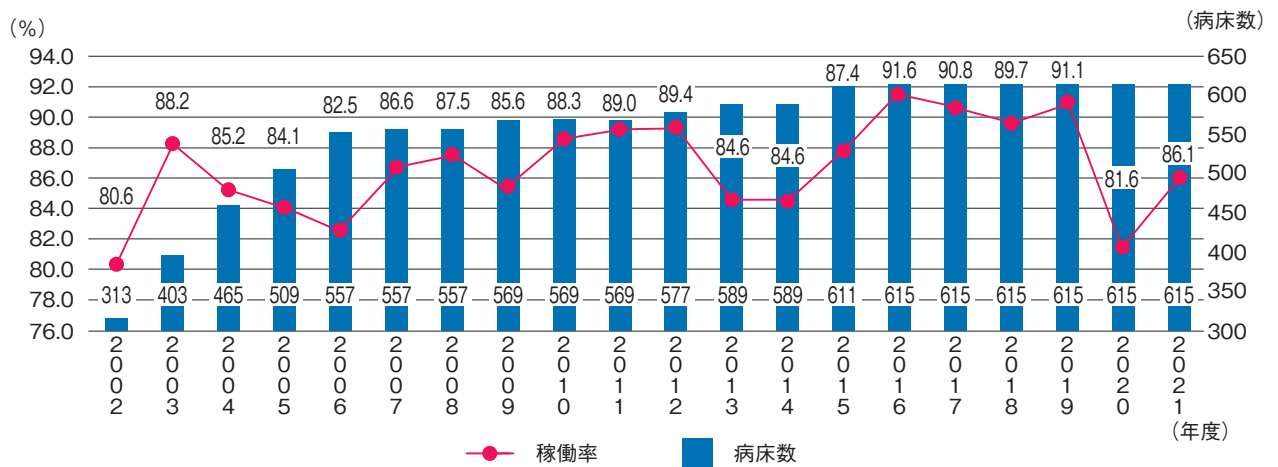


延べ入院患者数の推移



新入院患者数の推移

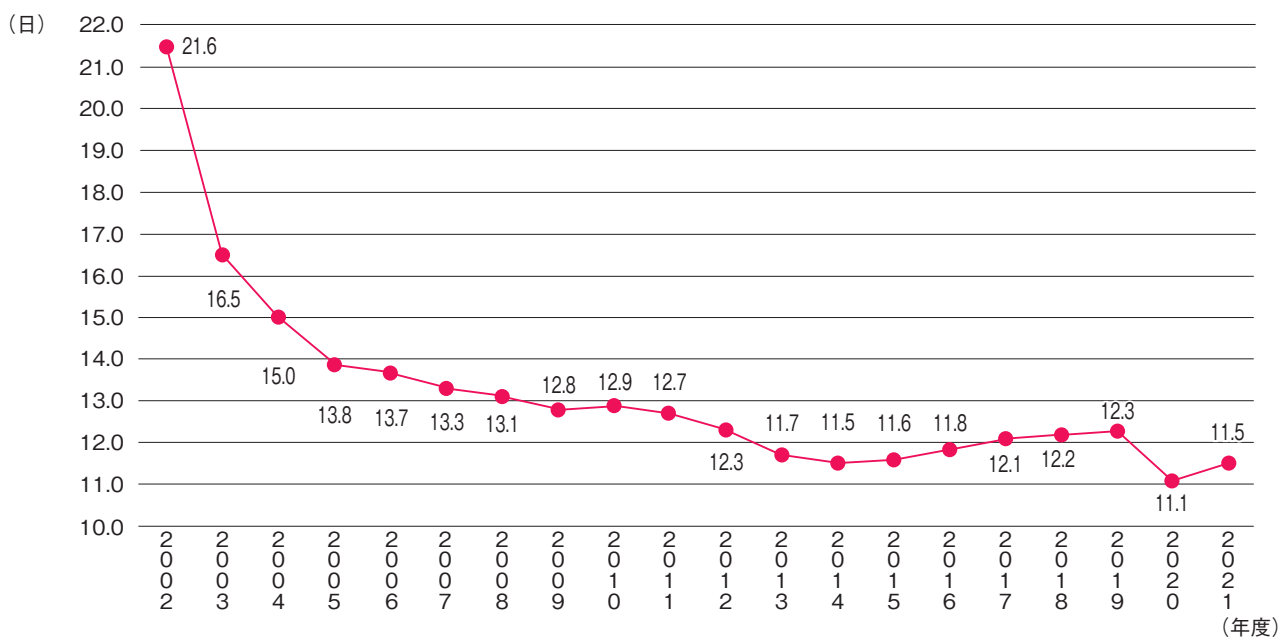
病床数と病床稼働率の状況



病床数と病床稼働率の推移

※病床稼働率は、入院延患者数（退院患者数を含む）を使用許可病床数で除して算出。厚生労働省「病院報告」の病床利用率の計算式とは異なります。

平均在院日数の状況



平均在院日数の推移

※平均在院日数は、厚生労働省「病院報告」の計算式で算出

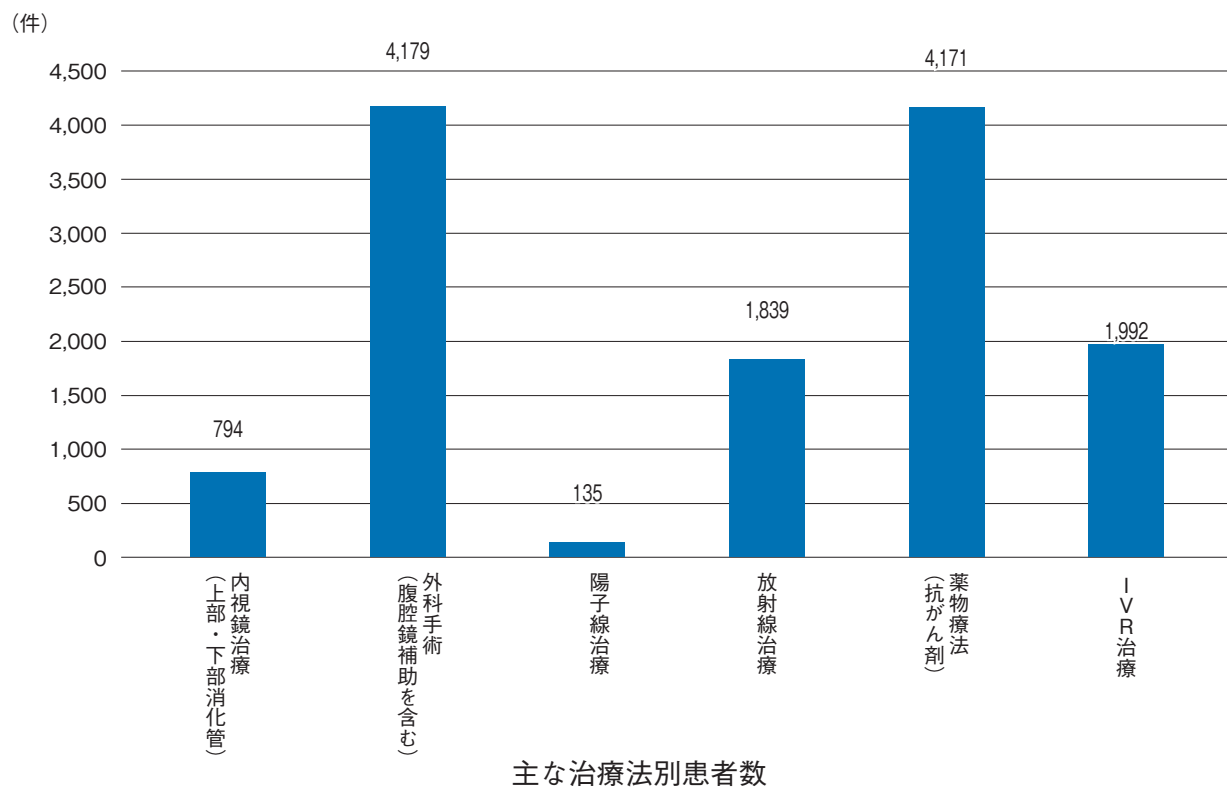
手術、放射線、薬物療法の状況

治療方法の内訳

初回治療の治療法の選択

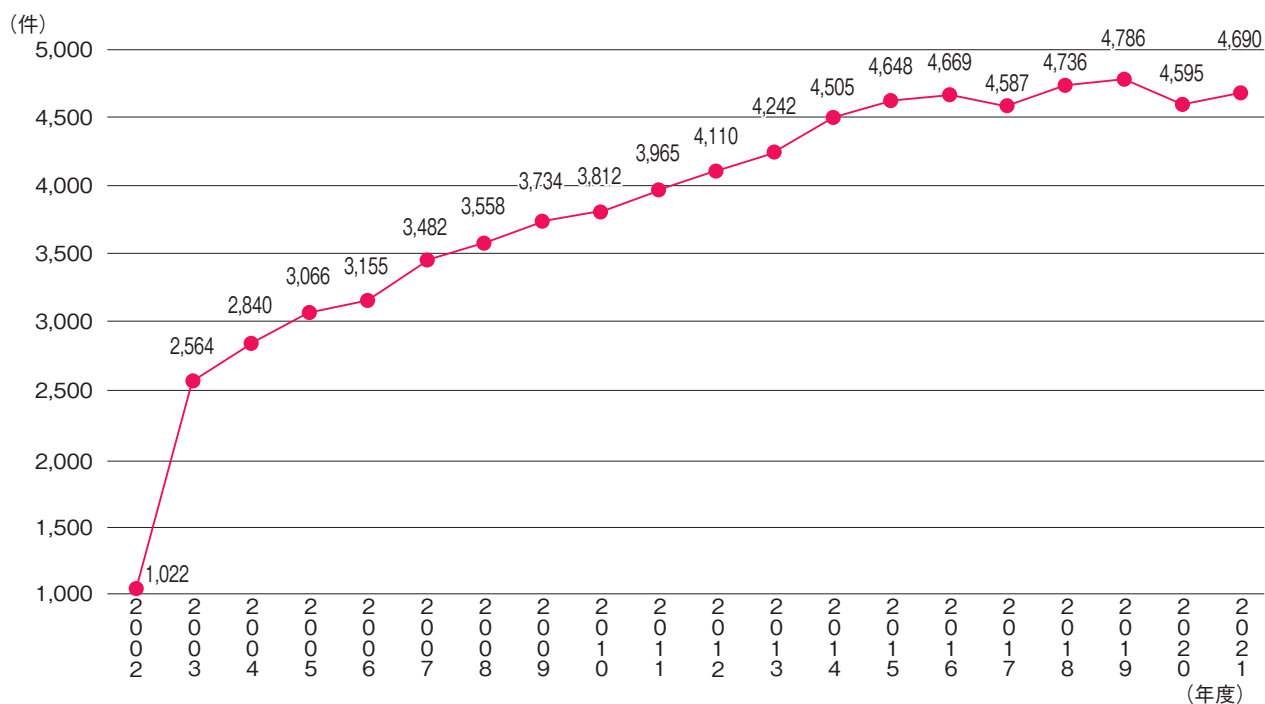
治療方法	件数	比率 (%)
手術	1,555	28.5
内視鏡治療	774	14.2
薬物療法	760	14.0
手術／内視鏡治療＋薬物療法	755	13.9
経過観察	506	9.3
放射線治療＋薬物療法	397	7.3
放射線治療	239	4.4
手術／内視鏡治療＋放射線治療＋薬物療法	202	3.7
その他	259	4.8
合計	5,447	100.0

※2021年がん登録データ



※2021年度データ

手術の状況



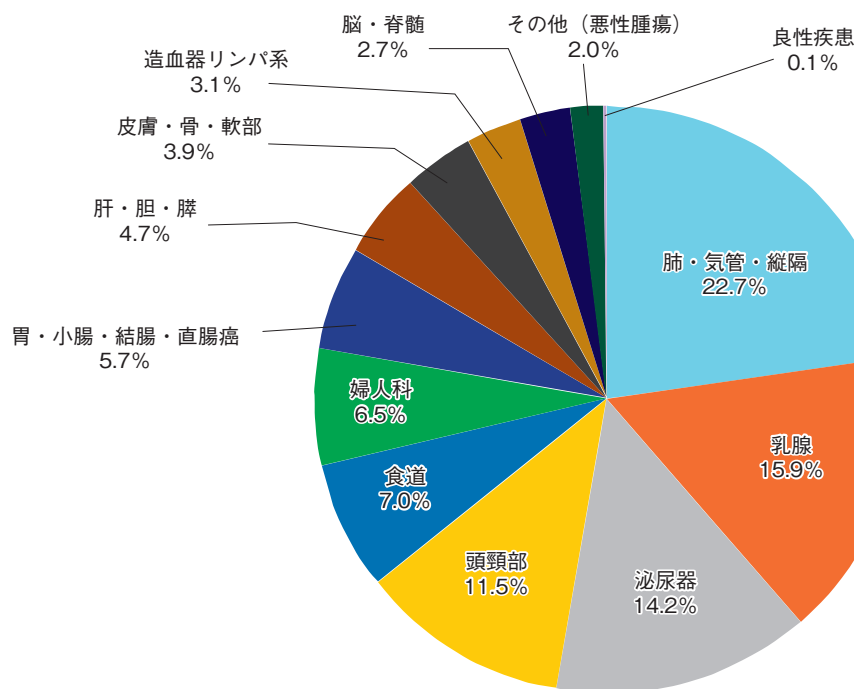
手術件数の推移

直近10年の診療科別手術件数

(単位：件)

診療科	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
脳神経外科	122	114	104	112	100	113	121	127	151	170
頭頸部外科	361	380	385	423	429	409	424	420	421	485
呼吸器外科	351	348	392	382	393	426	434	466	437	427
食道外科	50	54	62	59	59	50	58	104	74	71
胃外科	471	490	486	451	419	399	385	383	323	315
大腸外科	581	609	624	643	703	606	703	725	645	708
肝・胆・膵外科	324	345	338	379	390	405	402	380	414	416
乳腺外科	297	337	376	417	445	425	421	435	438	437
婦人科	370	356	416	451	472	448	453	437	415	434
泌尿器科	509	562	588	573	550	581	601	544	581	552
眼科	69	70	63	56	82	82	51	71	49	56
皮膚科	187	168	197	223	215	197	208	192	190	184
再建・形成外科	112	118	169	174	147	164	155	140	116	113
整形外科	243	224	232	265	235	260	289	271	239	266
歯科口腔外科	16	16	10	16	17	15	25	24	29	29
血液・幹細胞移植科	8	9	7	9	5	6	4	10	14	4
小児科	3	4	0	0	0	0	0	1	0	0
緩和医療科	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
麻酔科	22	14	13	15	3	0	1	0	0	0
内視鏡科	1	0	1	0	0	1	1	0	3	0
画像診断科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線・陽子線治療C	1	0	0	0	2	0	0	56	56	23
乳がん集学治療科	11	24	42	0	0	0	0	0	0	0
合計	4,110	4,242	4,505	4,648	4,669	4,587	4,736	4,786	4,595	4,690

放射線治療の状況

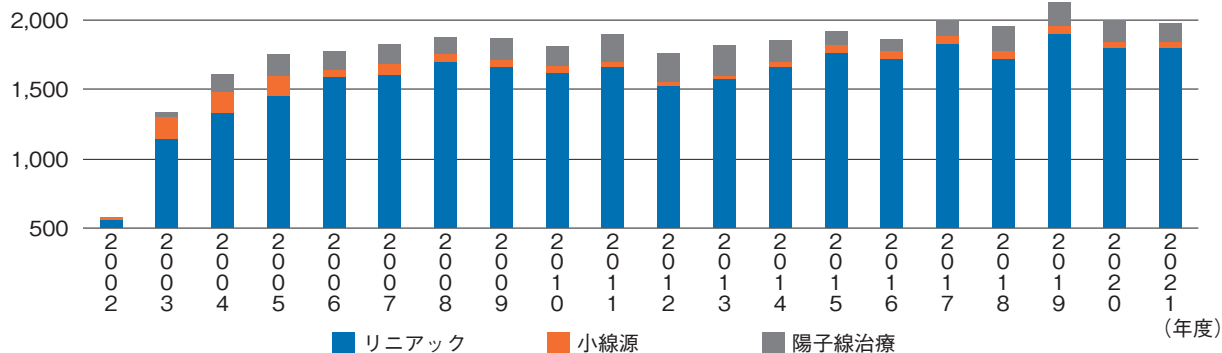


放射線・陽子線治療全体の原発部位別新規治療患者割合 (2021年度)

リニアック、小線源、陽子線治療別の治療人数等

年度	区分	リニアック		小線源		陽子線治療	
		延べ人数	実患者数	件数	実患者数	照射回数	治療開始者数
2002		7,047	563	53	21		
2003		20,977	1,146	152	152	1,012	39
2004		24,017	1,331	151	151	3,474	124
2005		24,646	1,454	138	138	4,345	154
2006		27,301	1,580	116	51	3,673	142
2007		26,949	1,606	137	75	3,980	143
2008		27,538	1,695	205	50	3,719	129
2009		29,837	1,661	194	47	4,128	150
2010		30,379	1,616	184	50	4,012	144
2011		30,613	1,654	155	43	5,724	197
2012		29,670	1,518	146	38	5,604	202
2013		28,862	1,570	98	28	6,282	213
2014		31,339	1,653	145	40	4,616	159
2015		33,287	1,758	166	48	3,060	112
2016		32,546	1,720	181	47	2,635	96
2017		32,586	1,821	158	58	3,278	119
2018		30,925	1,714	185	55	5,529	186
2019		32,500	1,896	191	58	5,224	165
2020		30,149	1,792	156	46	4,361	156
2021		29,658	1,795	150	44	3,621	135

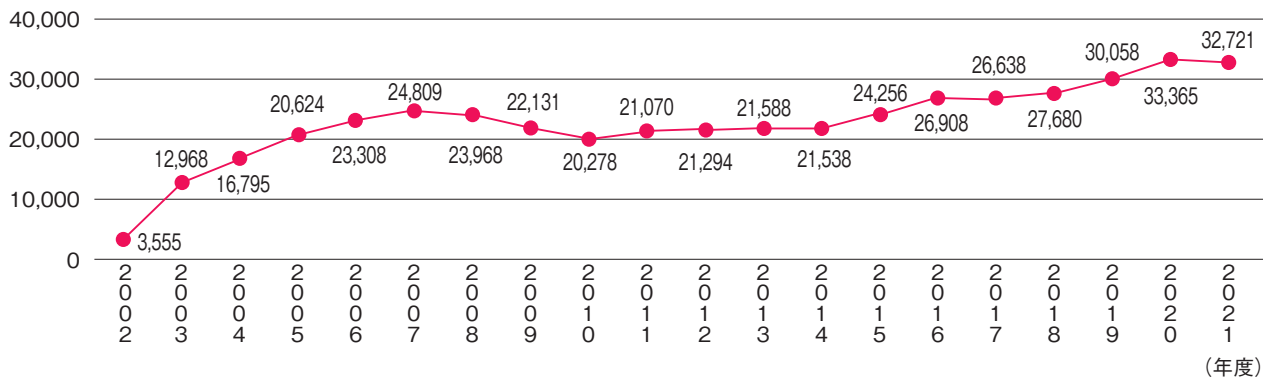
(人)



放射線・陽子線治療全体の治療人数の推移

薬物療法の状況

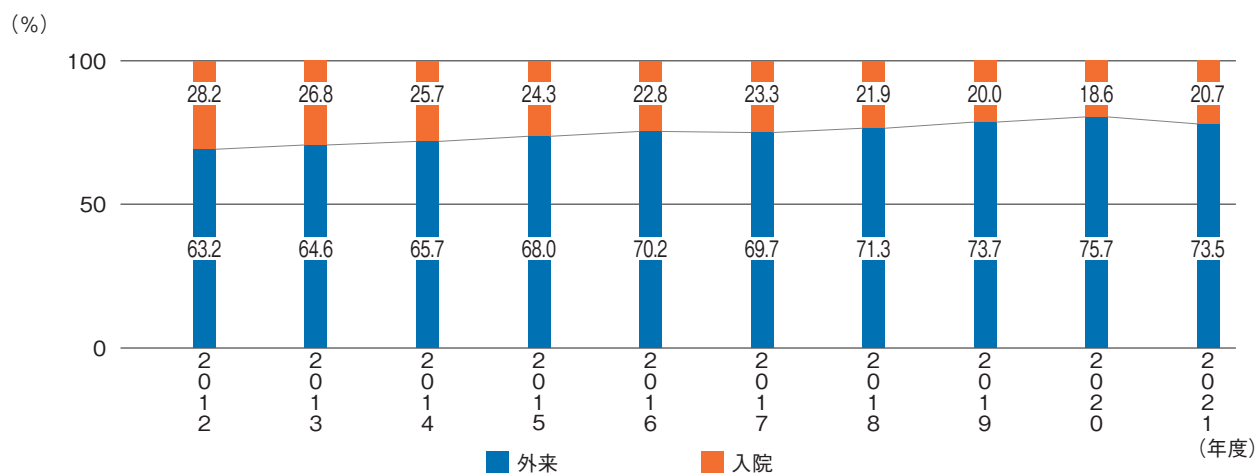
(件)



薬物療法（レジメン適用件数）の推移

直近10年の診療科別レジメン適用件数

診療科	年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
消化器内科		9,682	9,423	9,620	10,710	12,262	11,843	12,167	14,335	15,721	15,842
女性内科		1,495	1,699	1,594	1,508	1,279	1,047	1,365	1,102	1,321	463
婦人科		1,780	1,722	2,083	2,227	2,789	2,628	2,770	2,534	2,591	2,378
乳腺外科		1,065	1,232	1,545	2,209	2,329	2,496	2,648	2,588	2,926	3,602
血液・ 幹細胞移植科		1,075	1,382	1,359	1,628	1,619	2,116	2,050	2,509	2,873	2,689
呼吸器内科		3,626	3,523	2,962	3,584	3,845	3,804	4,245	4,575	4,760	4,395
画像診断科		820	14	0	0	0	0	0	0	0	0
IVR科		—	754	805	756	806	946	649	599	813	913
整形外科		271	258	254	329	375	281	295	222	253	259
内視鏡科		7	22	9	5	0	0	0	0	0	16
小児科		194	242	117	207	191	165	147	69	301	269
泌尿器科		418	490	469	575	634	663	745	905	1,119	1,329
皮膚科		248	168	251	372	607	498	452	435	434	335
緩和医療科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経外科		135	174	155	146	161	133	140	183	251	226
乳がん 集学治療科		478	485	315	0	0	0	0	0	0	0
眼科		0	0	0	0	11	9	3	2	2	5
循環器内科		0	0	0	0	0	9	4	0	0	0
合計		21,294	21,588	21,538	24,256	26,908	26,638	27,680	30,058	33,365	32,721



薬物療法（レジメン適用件数）の入外割合の推移

院内がん登録データを用いたがんの統計

院内がん登録は、がん医療の状況を適確に把握するため、当院において診療が行われたがんの罹患、診療、転帰等に関する詳細な情報を記録し保存するものです。この調査を複数の病院が同じ方法で行って、その情報を病院ごとに比べることで、病院の特徴などが明らかになります。

登録数の状況

2002年には1,468例であった登録数ですが、患者さんの数の増加に伴い徐々に増加しており、多少の増減はありますが2004年には4,000例代に、2011年には5,000例代に達し、2015年以降は概ね6,000例以上の登録がなされています。また、2007年以降は国立がん研究センターにも登録データを提出しております。

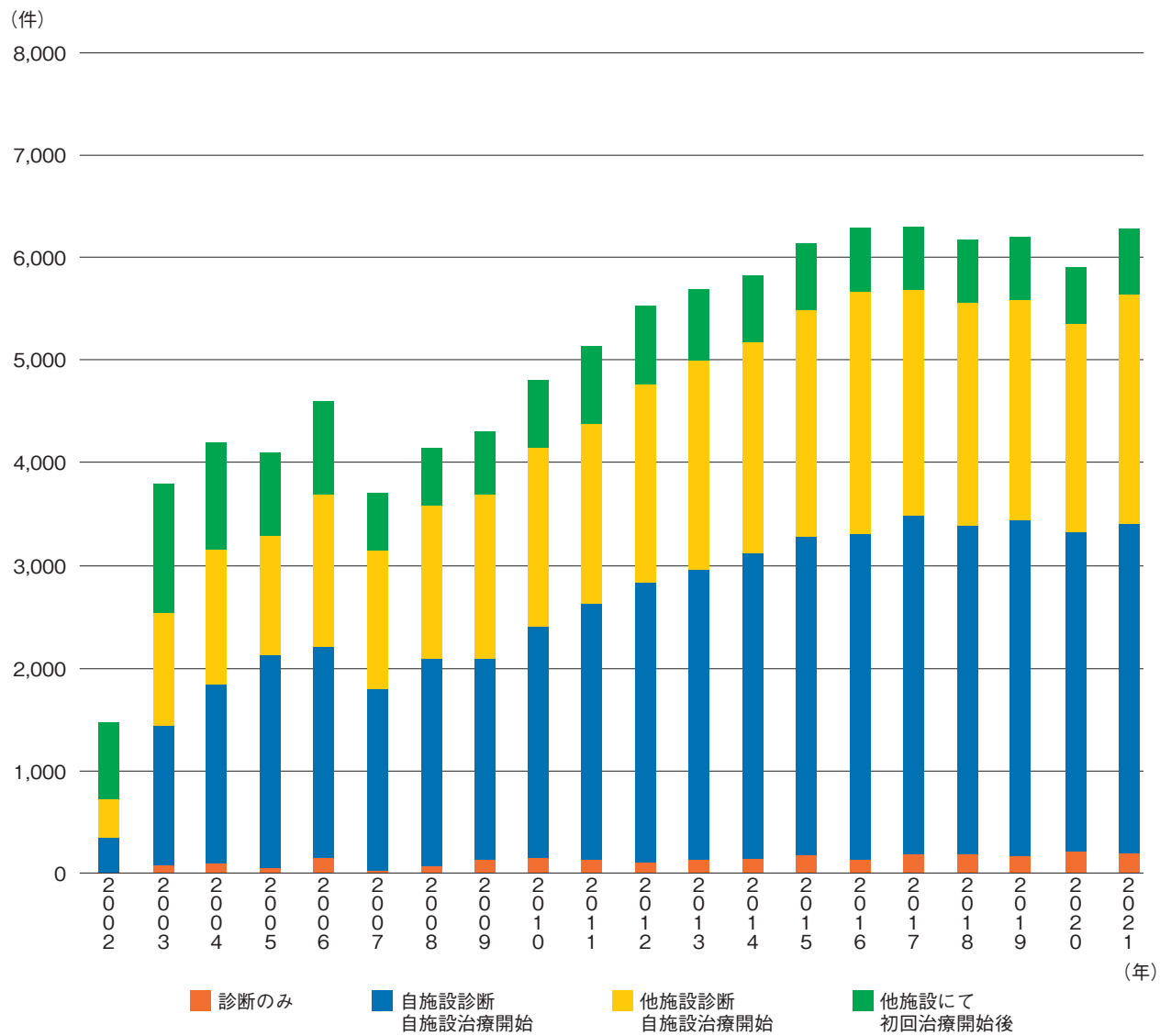
院内がん登録数

診断年	集計登録数 ^{※1}	男性	女性	自施設初回治療開始
2002年	1,468	801	667	715
2003年	3,797	2,098	1,699	2,463
2004年	4,203	2,434	1,769	3,066
2005年	4,096	2,328	1,768	3,236
2006年	4,602	2,653	1,949	3,544
2007年	3,713	2,228	1,485	3,123
2008年	4,148	2,471	1,677	3,522
2009年	4,305	2,645	1,660	3,571
2010年	4,807	2,810	1,997	3,997
2011年	5,138	3,037	2,101	4,250
2012年	5,531	3,332	2,199	4,669
2013年	5,697	3,441	2,256	4,870
2014年	5,832	3,457	2,375	5,039
2015年	6,145	3,612	2,533	5,328
2016年	6,292	3,614	2,678	5,539
2017年	6,307	3,655	2,652	5,508
2018年	6,184	3,610	2,574	5,375
2019年	6,205	3,609	2,596	5,424
2020年	5,908	3,367	2,541	5,151
2021年	6,278	3,543	2,735	5,447

※1 症例区分：「その他」を除いた登録数

■ 症例区分の状況

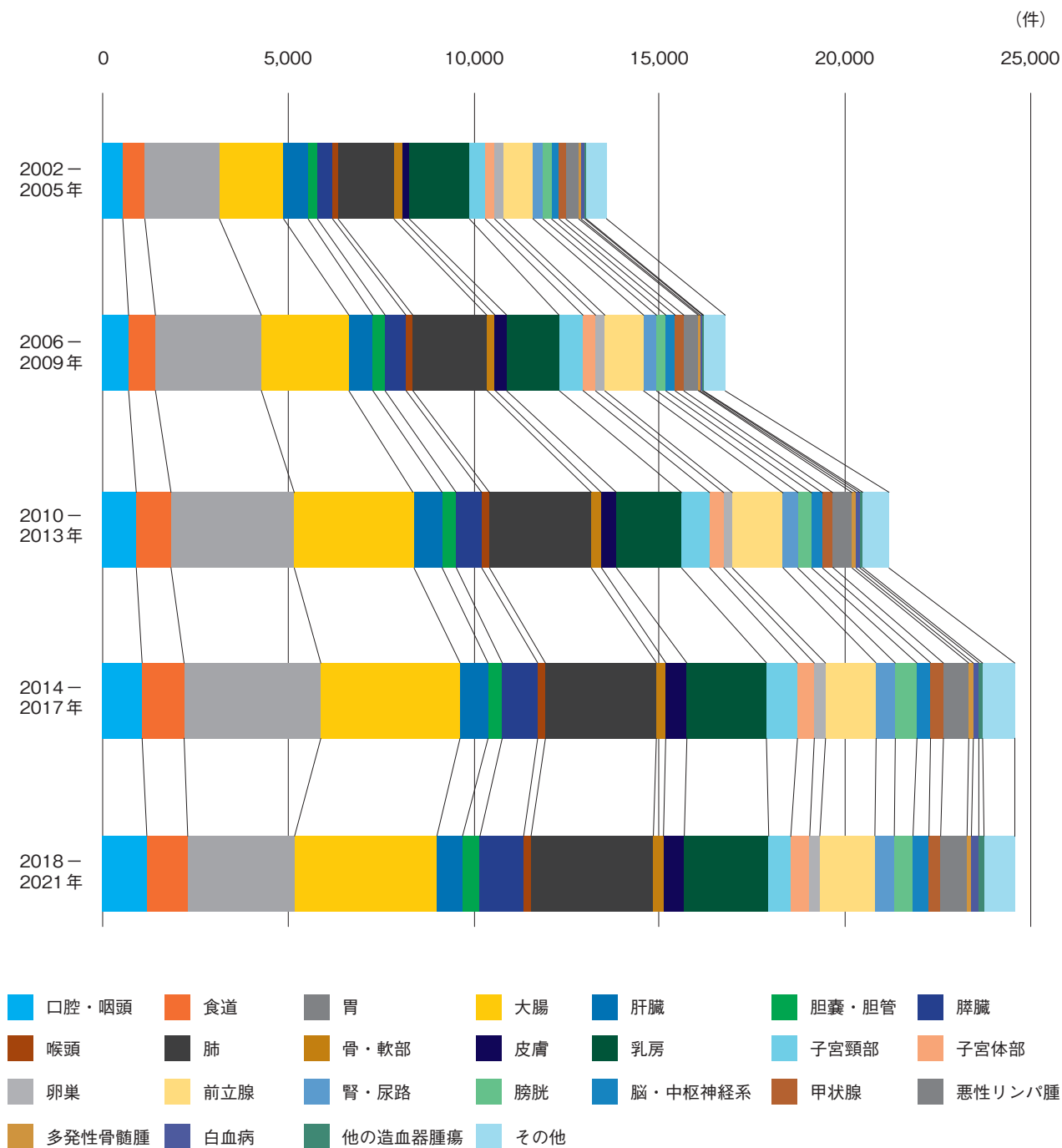
症例区分は、初回診断（当院での診断の有無）と初回治療（当院における初回治療の有無）の組み合わせにより分類されています。開院当初は他施設で治療開始された患者さんも多く見られましたが、最近では診断施設に関わらず当院で治療を開始する患者さんがほとんどを占めています。



症例区分の推移

■ 部位別登録数の状況（症例区分：その他を除く）

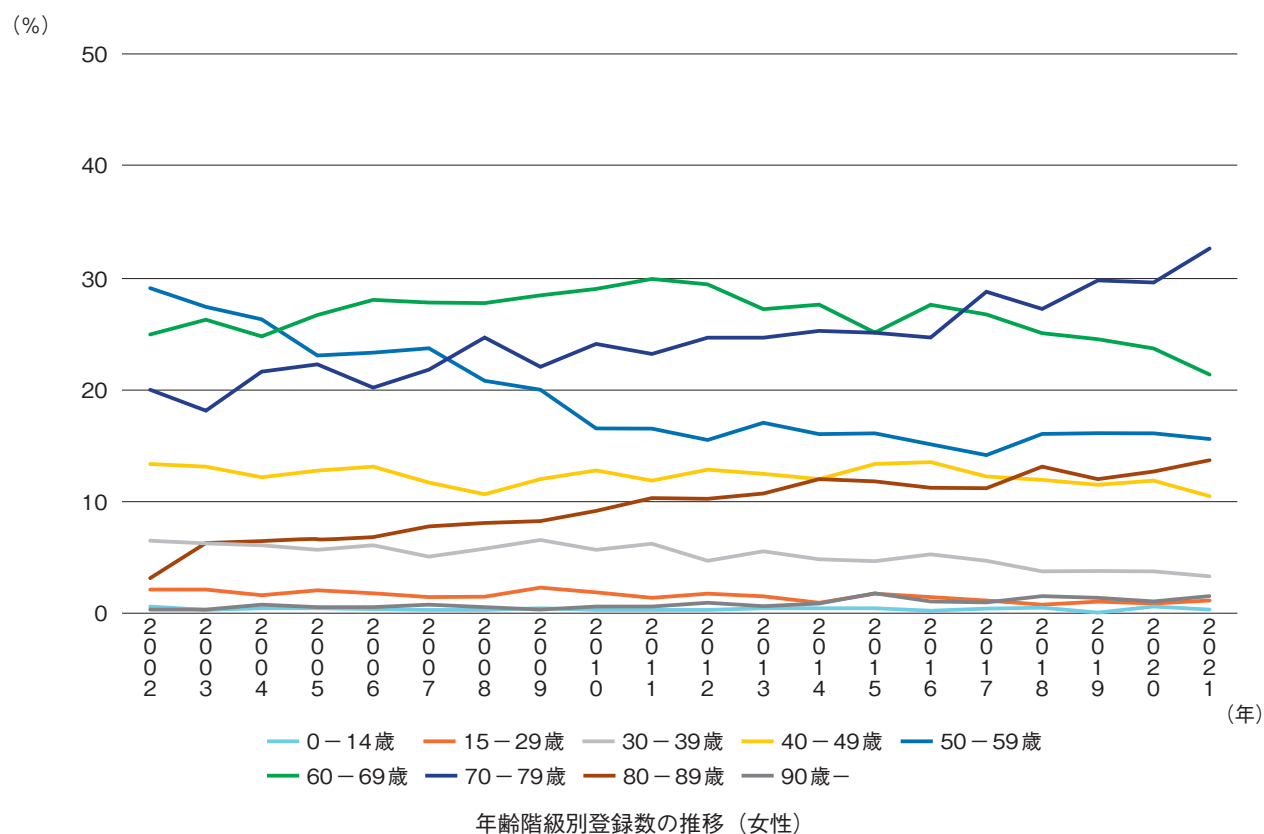
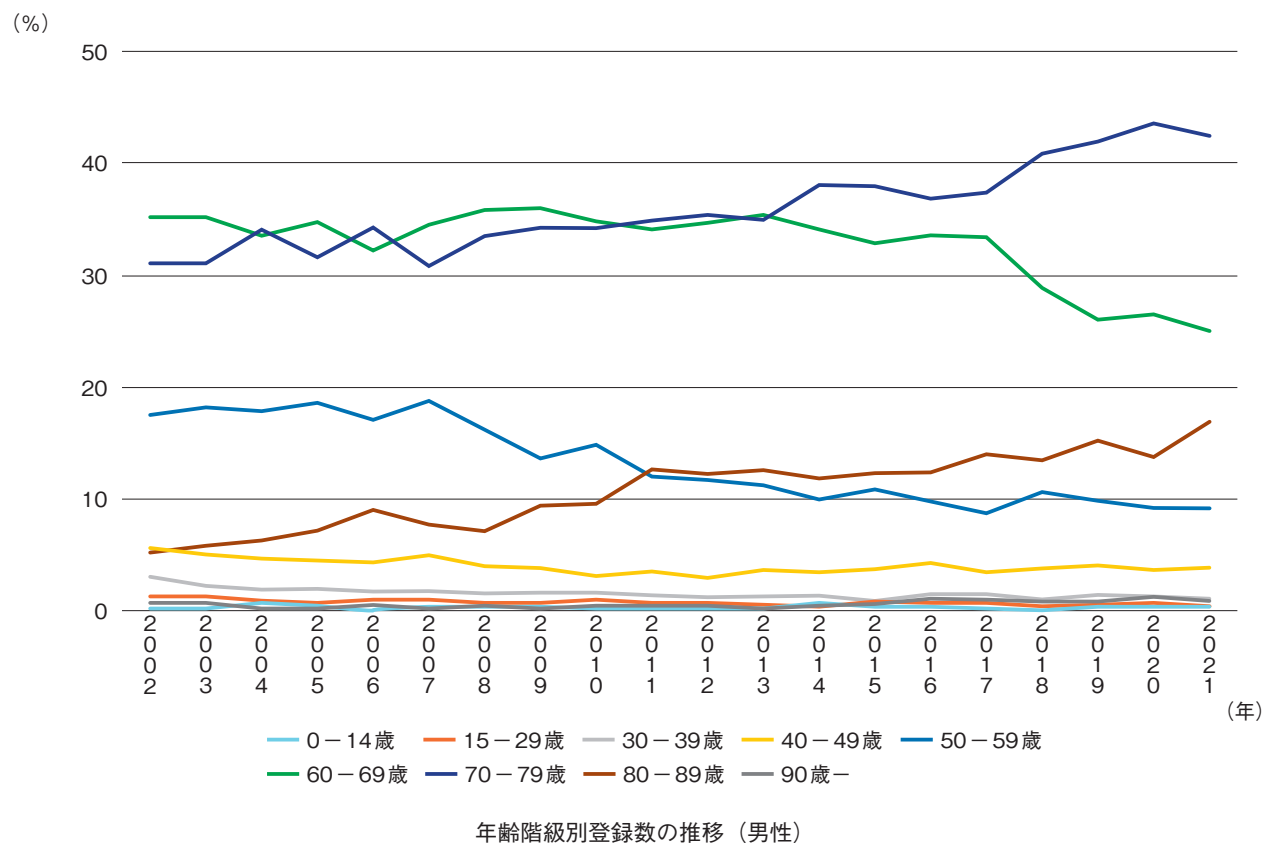
この表はがんの部位別の登録数を4年毎に集計したものです。最近の傾向としては、胃がん、子宮頸がんが減少し、大腸がん、膵臓がん、肺がん、乳がん、子宮体部がん、前立腺がんが増加傾向にあります。



部位別登録数の推移

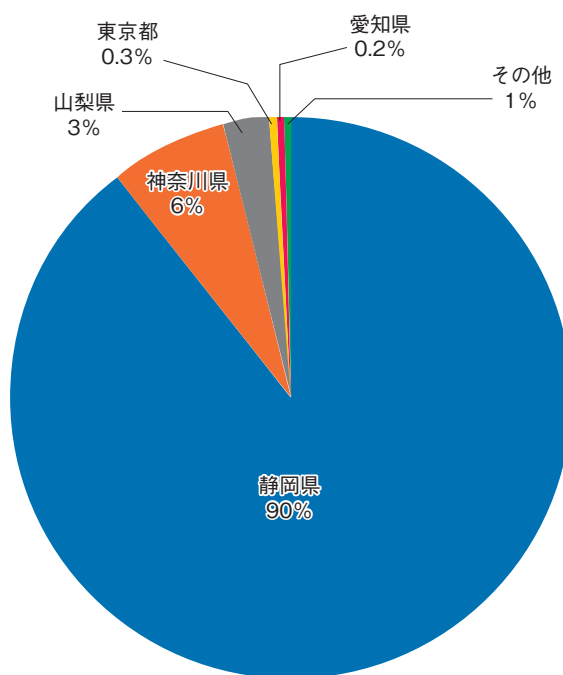
■ 年齢階級・男女別 登録数の状況（症例区分：その他を除く）

年齢階級別の登録数の推移をみると、男女ともに明らかに70歳以上の高齢の患者さんが増加しています。現在男性の平均年齢は70.0歳で、80歳以上の患者さんも17.8%を占めています。女性でも平均年齢は65.6歳で、15.2%が80歳以上の患者さんです。

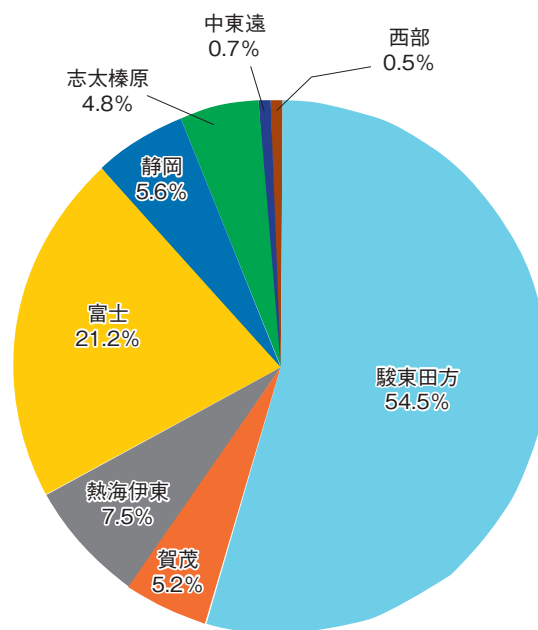


■ 診断時住所別 登録数の状況〈都道府県・静岡県内〉（症例区分「その他」を除く）

登録数を診断時の住所（都道府県）別に示したものです。開院以来大きな変動は認められず、約90%が静岡県の患者さんです。次いで、神奈川県、山梨県、東京都などから来院されてきました。さらに二次医療圏で見てみますと、半数以上の患者さんが駿東田方から、次いで富士、熱海伊東、静岡、賀茂、志太榛原の順で、約9割の患者さんが県東部から受診されております。



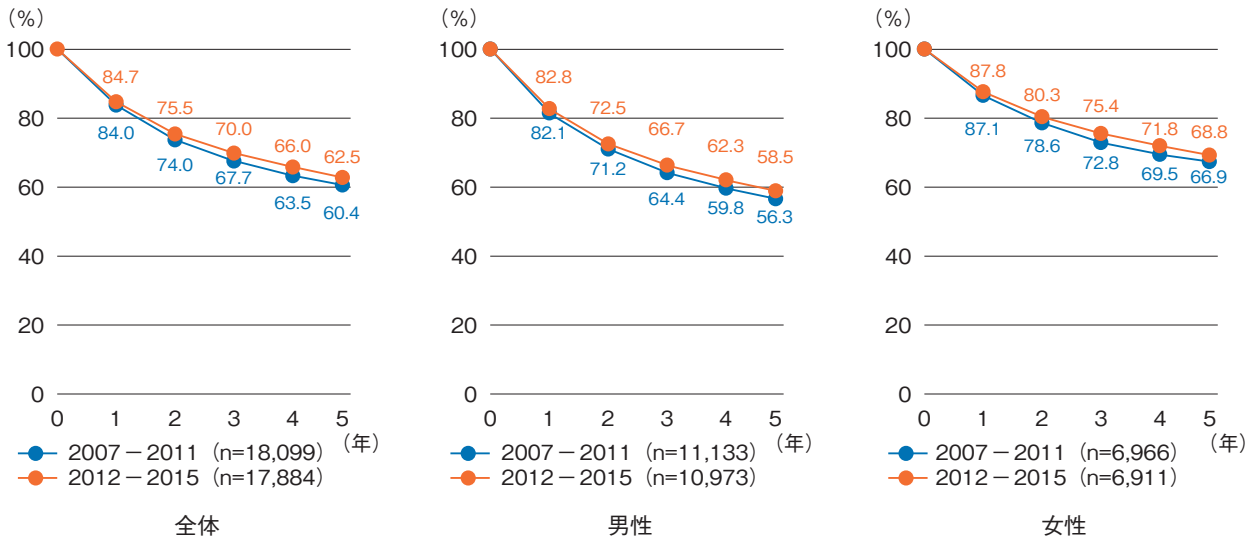
都道府県別 診断時住所別 登録割合（2021年）



静岡県内地域別 診断時住所別 登録割合（2021年）

主ながん治療成績

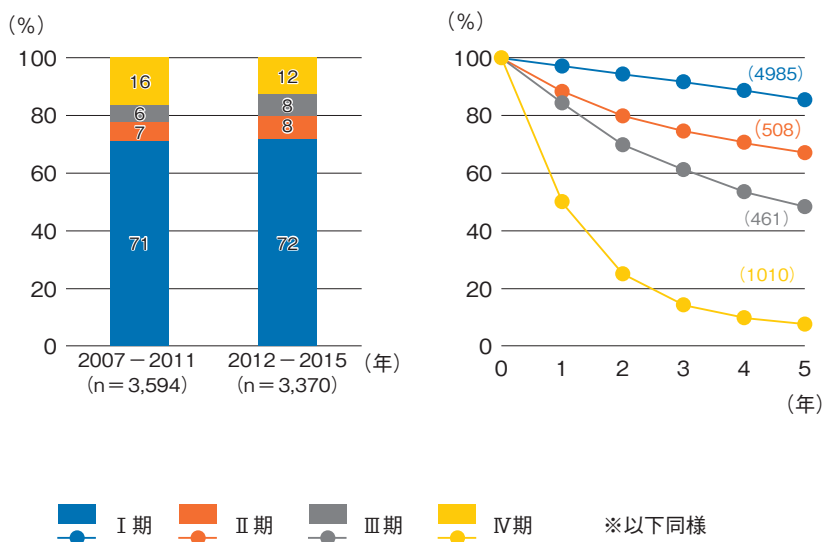
悪性腫瘍全体・男女別の状況



悪性腫瘍の患者さんの生存率を2007年～2011年（前期）と2012年から2015年（後期）に分けて比較したものです。男性、女性共に後期で生存率の改善が見られており、後期の5年生存率は男性58.5%、女性68.8%で、全体では62.5%でした。期間中で病期の分布には大きな差を認めておりませんので、生存率の改善は治療成績の向上によるものと考えられます。

主要がんの病期別5年生存率の状況

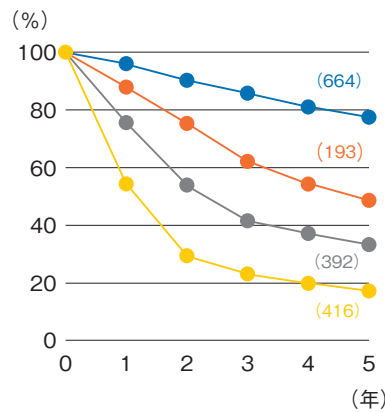
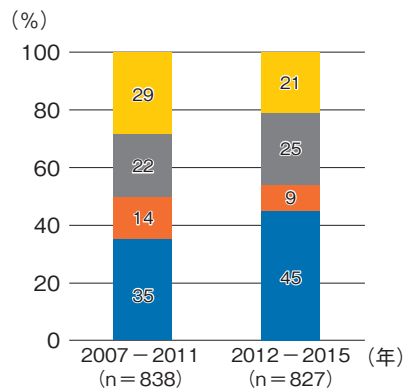
胃がん



病期分類は前期と後期で大きな差を認めず、約7割の患者さんがI期であった。進行度別の生存率を全国集計^{*}と比較するとII期、III期で良好な傾向であった。

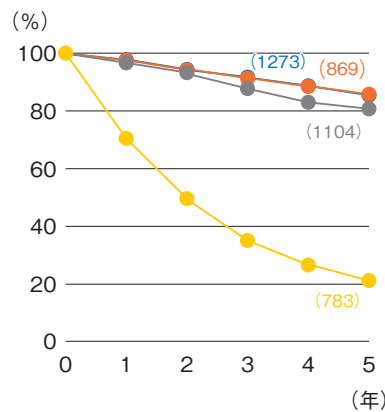
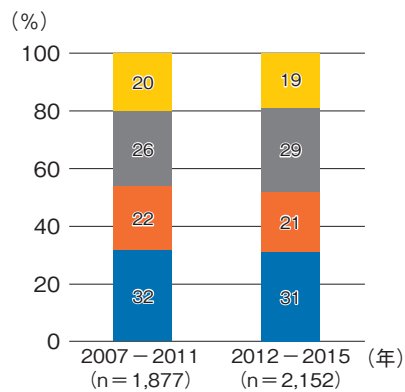
*全国集計：がんの統計2022，がん診療連携拠点病院などにおける5年相対生存率（2012～2013年診断例）

食道がん



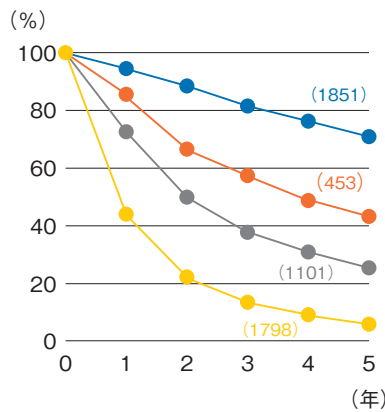
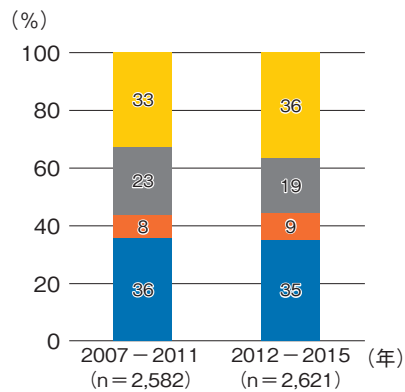
病期分類では後期でI期が増加し、IV期が減少していたが、分類の違いによる影響*と思われた。生存率を全国集計*と比較するとIV期で良好な傾向であった。

大腸がん



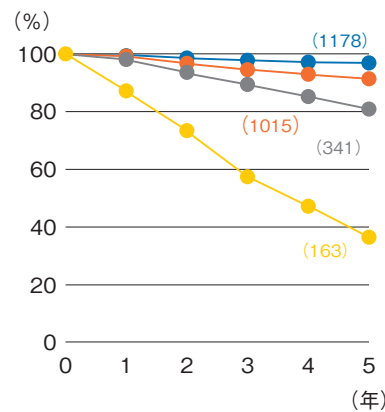
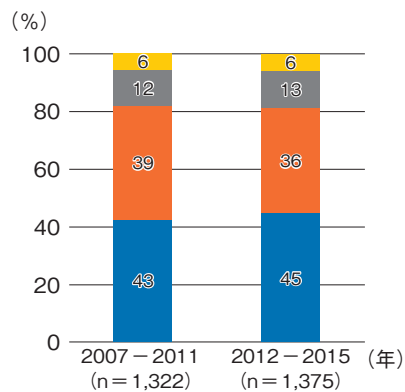
病期分類は前期と後期で大きな差を認めず、全国集計*とも大きな差を認めなかった。病期別生存率を全国集計*と比較すると、III期で良好な傾向であった。

肺がん



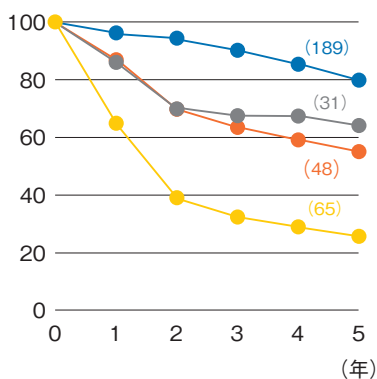
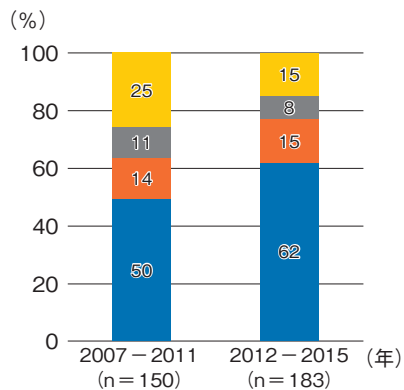
病期分類は前期と後期で大きな差を認めず、全国集計*と比較するとI期が少なくIV期が多い傾向であった。病期別生存率は全国集計*とほぼ同一であった。

乳がん



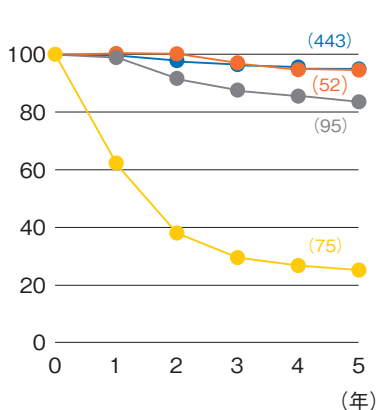
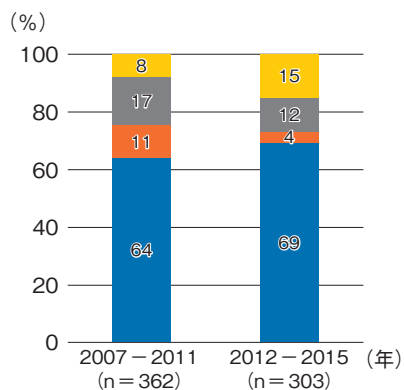
病期分類は前期と後期で大きな差を認めず、全国集計*とほぼ同じような分布を示していた。病期別生存率についても、全国集計*とほぼ同一であった。

膀胱がん



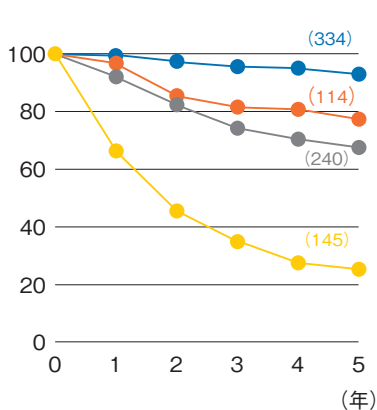
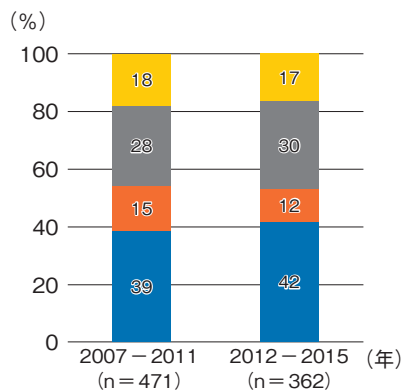
後期でI期が増加しIV期が減少していた。全国集計と比較してもI期は多い傾向にあった。生存率に関しては全国集計と比較しIII期で良好であった。

子宮体がん



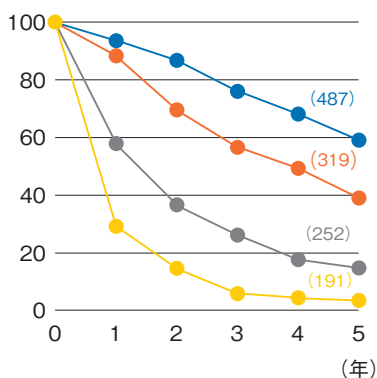
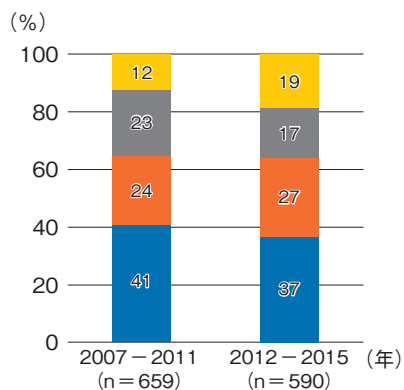
病期分類は前期と比べ後期でII期が減少し、IV期が増加していた。病期別生存率を全国集計と比較するとIII期で良好な傾向を認めた。

子宮頸がん



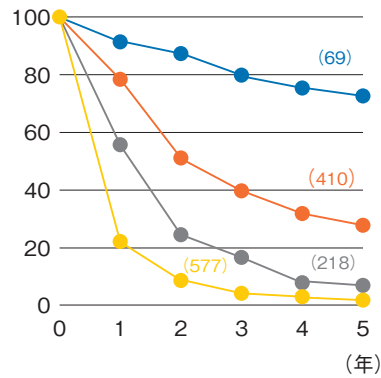
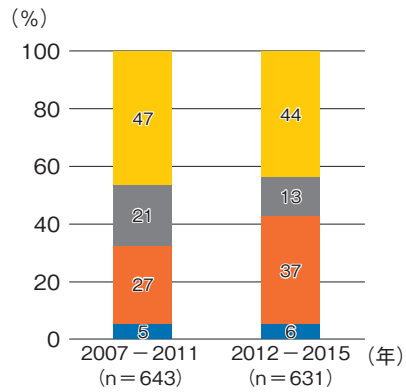
病期分類に関しては大きな変動を認めず、全国集計とも大きな差を認めなかった。病期別生存率に関しても全国集計と大きな差を認めなかった。

肝臓がん



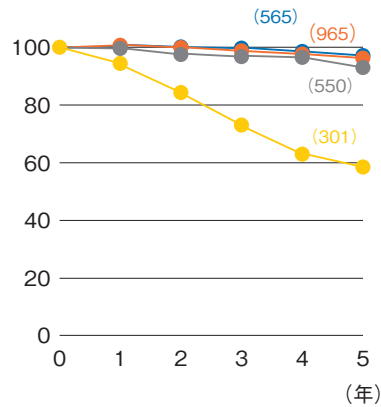
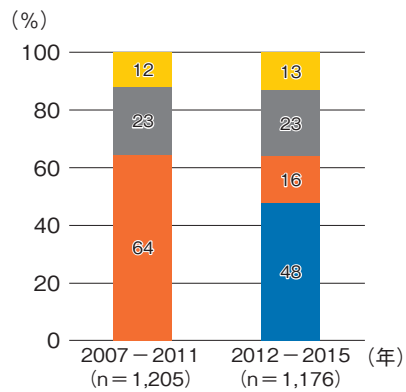
病期分類では後期でI期が減少しIV期が増加していた。全国集計と比較しIV期が多い傾向にあった。生存率に関しては全国集計とほぼ同一であった。

膵臓がん



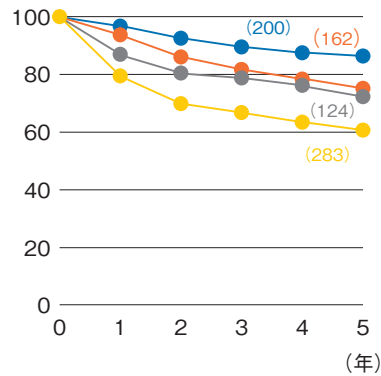
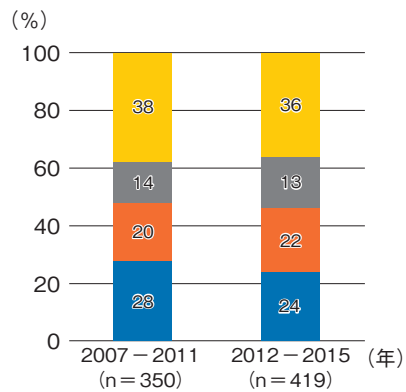
病期分類では後期でII期が増加していた。全国集計と比較してもII期が多い傾向にあった。生存率を全国集計と比較するとI期で良い傾向にあった。

前立腺がん



TNMの病期分類が変更になったため、後期でI期が増加しているがIII期、IV期の比率は同等であった。生存率に関しては全国集計とほぼ同一であった。

悪性リンパ腫



病期に関しては前期と後期で大きな差を認めなかった。生存率は病期の進行と共に低下していたが、II期とIII期には大きな差が認められなかった。